

大迫たばこ栽培の建築遺産

—葉たばこ乾燥倉—

うち かわ め そと かわ め おう しょく しゅ
内川目・外川目地区には、黄色種という葉た
ばこの人工加熱乾燥に使用された施設が多数現
存しており、乾燥倉と呼ばれています。

黄色種とは、米国由来の特殊な乾燥法を必要とする品種で、大迫では専売局の指導のもと昭和5年に試作が行われ、昭和8年には本格的な耕作へと移行し、各所で乾燥倉が建設されました。

当時は嗜好の変化によって南部葉が低迷していたため、専売局は品種転換を模索し、黄色種を導入しました。

黄色種は屋内の自然乾燥では製品化できず、乾燥倉を使用して70～80時間にも及ぶ複雑な工程を経る乾燥作業が必要でした。しかし、品質が優れず、昭和38年には作付けが中止され、乾燥倉も使用されなくなりました。